

(4) 国立看護師等養成所に対する現場からの提言

安 達 富 美 子

A COUNTER PROPOSAL FROM THE VIEWPOINT OF HOSPITAL NURSING

Fumiko ADACHI

国立看護師等養成所は日本の看護界、医療界に大きく貢献してきた。しかし、看護教育が大学教育でなされることが本流であるように考えられてきている今日、独立行政法人化後の国立養成所は優秀な人材確保、財政面の課題、少子化に対する対応など多くの課題を抱えているといえる。どのような方向性が望まれるか臨床現場の立場から述べたい。

関東甲信越管内の看護部長の意見

管内の看護部長にシンポジウムのテーマについて意見を求めた結果を述べる(病院17施設、療養所22施設、ナショナルセンター5施設の計44施設の回答)。

(1) 平成14年4月の看護師採用者で、国立の看護学校の卒業生の占める割合は60%以上を占める施設が22施設、80%から100%の施設が10施設あり、これだけでも国立施設が国立の看護学校の看護師養成に大きく依存し、また期待している状況が明確である。

(2) 看護大学の卒業生が職員の中に何名いるかを調べた。ナショナルセンター5施設で152名、病院で5施設21名、療養所で1施設2名、計175名であった(図1)。

(3) 今後の国立養成所卒業生の採用について、看護部長の意向は、積極的に考えたい、とする部長が79.5%(35名)であった。その理由は、国立の卒業生に信頼感を持っ

ているから、という選択肢がもっとも多く、54.5%(24名)であり、国立看護師等養成所の卒業生に対して、看護部長は大きな信頼を寄せていることが分かる(図2)。

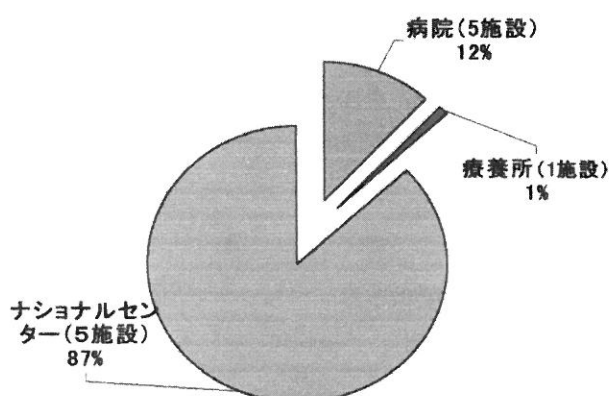


図1 看護大学卒業生の施設別割合

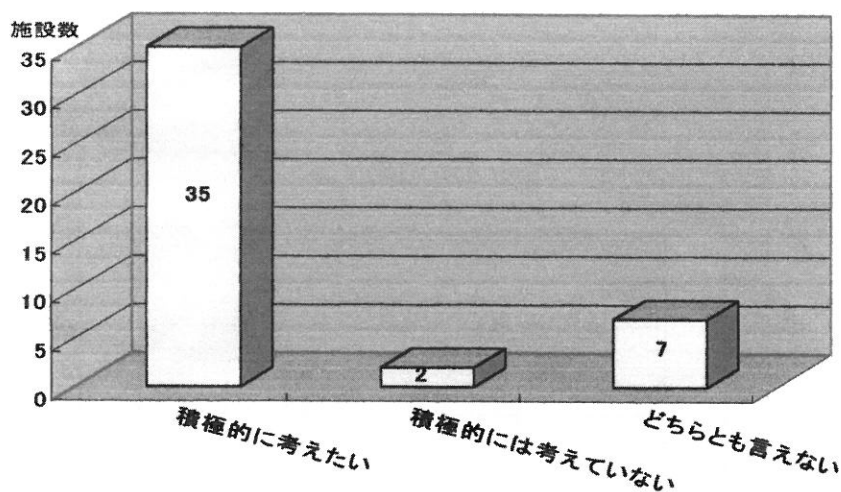


図2 国立養成所卒業者への採用意欲

国立がんセンター東病院 National Cancer Center Hospital East 看護部

Address for reprints: Fumiko Adachi, Director of Nursing Department, National Cancer Center Hospital East, 6-5-1 Kashiwanoha, Kashiwa, Chiba 277-8577 JAPAN

Received June 26, 2003

Accepted November 21, 2003

(4) 国立看護師等養成所の卒業生の採用時の能力の推移についてどう感じているかを、①対人関係能力 ②技術実践能力、③表現記録能力、④推察力・洞察力、⑤探求・分析・論理的能力、⑥自己成長力、⑦総合医療の視点、の7点に分類し、聞いた。高くなっているのは、記録表現能力で、低くなっている項目は、技術実践能力、対人関係能力であった。全体で高くなっているのは13.3%、同じ程度は48.7%、低くなっているのは、34.7%であった。全体的には低くなっている傾向が多かったが、この点は、時代の変化、すなわち現代の若者が持つ要因の方が大きい事が考えられる。今後、期待したい能力は、1番が探求・分析・論理的能力、2番が対人関係能力であった(図3)。

(5) 国立看護師等養成所が有能な人材を引きつけるためのアイデアは、①教官の増員と質の向上、②実習指導体制・ユニフィケーションの強化、③教育環境の充実、費用の徴収、④特長を生かした魅力あるカリキュラム、⑤専門分野教育、認定看護師教育を含めた教育の構築、⑥母体病院の看護の質の向上、⑦大型化、短大化、大学校化などの案があった。

提 言

(1) 制度的な面の改革案

①大型化、短大化、大学校化について、さらに統合大型化を進め整備する必要がある。準学士号を学位授与機構から認可を受けたいが、これは至難の業であると聞いて

いる。であれば、さらに、大学校を増やしたい(全国8拠点)。学歴社会である事実を考えると優秀な人材を引きつけるには最終的にはその方向を目指すしかないと考えている。

②大学校と養成校との連携であるが、国立養成校から看護大学校への編入や、インターネットによる講義の聴講(これは大学校に限らず専門施設からの発信も含める。単位の認定等の検討が望まれる)教員の研修・研究支援も始められているが、これらの拡充を希望したい、これらのネットワークをPRしたい。

③進学休職制度、学習休暇制度などの導入。

私の勤務施設でも毎年、大学への編入、大学院への進学、認定看護師研修などのため退職する者が数名いる。また通信制の大学院や社会人向けの、仕事を続けながら学習できる大学・大学院も増加している。このような社会の変化に対応し、進学のための休学制度、学習休暇など、継続的なキャリアアップをしやすい多様な制度をつくりたい。

④認定看護師を大学校、国立専門病院で養成することを拡大し、PRする。

(2) 養成校の教育力を充実するための案

①専門分野毎の教官の配置が整備されつつあるが、実力ある教員を増員し配置したい。

②実習指導体制・ユニフィケーションを強化し、国立養成所が臨床実践に立脚した教育を理念としてきたことをおし進めたい。実習調整者の専任化、指導者の増員が

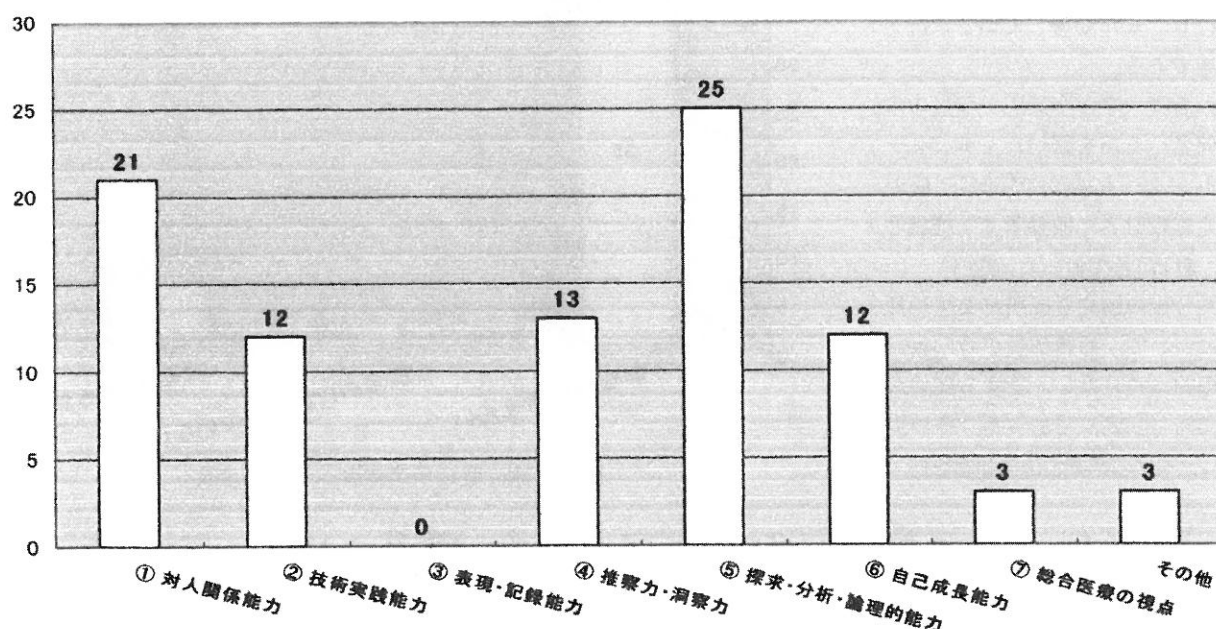


図3 採用時に期待する能力

必要である。

③自己成長力を育てるカリキュラムの工夫、教材の精選、使える理論と技術の教育。

④施設の特長を生かした魅力あるカリキュラムを創造し、専門性をPRをする。

⑤臨床現場の看護の質の向上が必須である。そのための増員、補助業務の改善の必要があり、臨床にも有能な人材が揃っていて初めて質の高い教育が可能となる。

お わ り に

教育には20年、30年先を見ての投資が必要である。独立行政法人化後も病院が存続する限り、有能な看護師を育てることはわれわれの義務であると考え、**「臨床の知」**を発展させるためたくましく優秀な若者を集め、確実に育ててゆきたい。

文 献

- 1) 齊藤ゆみ, 後藤光代, 大柴幸子ほか: 実習教育のための臨床と教育の場の連携に関する試み. Qual Nurs 7: 773-784, 2001
- 2) 華表宏有: 大学院授業科目における「インターネット活用による遠隔授業方式」試用の事例. 看護教育 43: 732-736, 2002
- 3) 内村美子, 澤本万紀子: カリキュラム開発を学ぶ
④生涯学習時代に向けた看護学教育カリキュラム—学習者のとらえ直しと臨地実習の開発. 看護展望 27: 90-98, 2002

(平成15年6月26日受付)

(平成15年11月21日受理)